

第17回多可町子ども・子育て会議 議事録

日時	平成30年12月18日(火) 15:00~16:50
場所	多可町教育委員会 会議室
参加者	<p>《委員》</p> <p>出席：鈴木会長、木俣副会長、藤井委員、藤岡委員、寺尾委員、高尾委員、吉田委員、清水谷委員、藤本委員、上野委員、萬浪委員、秋山委員、橋尾委員、高見委員、岡本委員、高橋委員</p> <p>《事務職》</p> <p>岸原教育長、今中課長、石井</p> <p>《策定支援》</p> <p>株式会社グリーンエコ 仲里</p>
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病後児保育事業の廃止について 2) 子ども・子育て支援にかかるニーズ調査の実施および調査票について 3) 平成31年度保育施設等入所説明会の開催等について 4) 多可町保育施設入所選考基準要綱の制定について 5) 公私連携によるキッズランドの運営(民営化)について 4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子育てふれあいセンターの移転について 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 次回の会議開催予定 第18回子ども・子育て会議 日時 平成31年2月21日(木) 午後3時~午後5時 場所 多可町役場 特別会議室 6. 閉会
資料	<p>資料1. 病後児保育のご案内</p> <p>資料2. 多可町子ども・子育て支援にかかるニーズ調査概要</p> <p>資料3. 平成31年度 認定こども園・保育所等 入所説明会の開催等について</p> <p>資料4. 多可町保育施設入所選考基準要綱</p> <p>資料5. 公私連携によるキッズランドの運営(民営化)についての近況報告</p> <p>資料6. 子育てふれあいセンターの移転案について</p> <p>資料7. 平成30年度子ども子育て支援にかかるニーズ調査結果集計</p>

1. 開会

【事務局】

本日はお忙しい中、ご参集いただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから第17回多可町子ども・子育て会議を開会いたします。本日、寺尾委員さんが後ほどお越しいただけるかもしれませんので、始めさせていただきたいと思います。

それでは、初めに資料の確認をさせていただきたいと思います。皆様にお送りをさせていただきました会議次第と、資料1と記載してあります資料集になります。この中には資料1から資料7までを一まとめにしたものになります。それから、この10月に実施いたしました平成30年度子ども・子育て支援に係るニーズ調査票を2種類、就学前児童用と小学生用の2冊を入れさせていただいておりました。この調査票につきましては、前回7月の会議でご説明させていただき、委員の皆様にはアンケート票の案を書面で送付させていただきまして、こちらで修正を行った上でご承認をいただいたものになります。以上が今日の会議の資料となります。資料は全ておそろいでしょうか。足りないものがあればお申し出ください。よろしいでしょうか。

それでは開会に当たりまして本会議の会長でございます兵庫教育大学、鈴木先生よりご挨拶をいただきたいと思ひます。先生、どうぞよろしくお願ひします。

2. 会長あいさつ

【鈴木会長】

皆さん、こんにちは。今回も子育て会議にお集まりいただきましてありがとうございます。アンケートが無事、集計にかかっており、このまま順調に計画は立てられるかなと思ひますので、また中身の審議のご協力をお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

3. 報告事項

1) 病後児保育事業の廃止について

【事務局】

— 資料1の説明 —

この度、『みどりこども園』から平成31年度以降の病後児保育事業実施を終了したい、という旨の申し出がございました。理由といたしましては、ご勤務いただいていた看護師さんが今年度末で退職されることや、年間を通しての利用者数が大変少ないといったことなどが理由であります。

ただ、実際の利用者数が少ないとしても、このサービスがあることによって、本当に預けないといけない方にとっては貴重なサービスでありますので、何とか受け受入体制を継続する方向で、『みどりこども園』でも後任の確保に向けて努力していただいたところではあります。なかなか看護師さんが確保できないといったような状況であります。つきましては、町ではこの申し出を受け、西脇市多可郡医師会と、北播磨県民局のへ平成31年4月1日付の『みどりこども園』での病後児保育事業を廃止する旨の届出を提出することとしておりますので、ご報告いたします。

【鈴木会長】

本当に長いこと、「みどりこども園」には大切なサービスを担っていただきましてありがとうございました。でもどうでしょうか？大変というか、だいぶ人数が減ってきたということもあるのですけれども。

【委員】

利用の方は少ないですけど、なかなか看護師さんという職業が1、2年勤めると、現場に戻りたいという看護師さんが案外多く、なかなか確保が難しいというか、これまでも探すのにだいぶ努力してきたんですけど、なかなか。

【鈴木会長】

実質2名ずつということで、あまり利用もそんなになかったということですので、受入先は確保したいというところはやまやまですけども、看護師さんの確保、本当に難しいということで、やむを得ずということで、こういうふうになったというふうに思いますので、それは今までの努力に関して感謝申し上げます。今後、何かあれば事務局としてもう少し努力をしていただくということで、今回は廃止の方向でということですよ。皆さん、それでよろしいでしょうかね。ただ、病児保育はまだ。

【事務局】

はい、継続します。

【鈴木会長】

「おひさまにこにこクリニック」のほうで継続をしますので、本当に一番大変なときは、サービスは継続するということがありますので、ご安心いただいた上で病後児のところは皆さんで何とかカバーをしていくということをお願いしたいと思います。どうも本当に「みどりこども園」さん、本当に長い間ありがとうございました。ご質問等がなければ次に行きます。

2) 子ども・子育て支援にかかるニーズ調査の実施および調査票について

【事務局】

— 資料2の説明 —

調査内容についてですが、これは国から調査の基本方針が示されておりまして、必ず質問しなければならない、という調査項目が定められております。国の調査項目をベースに、町の独自設問を追加して作成しております。ただ、やはり就学前児童のアンケートでは必須項目というのがかなり多く、実際にお答えいただくのは、かなり大変であったと思うのですが、全国の市町が同じような形になっていると思っております。調査方法につきましては町内の「認定こども園」や「キッズランド」、また小学校へ通われているお子さんの保護者には「学校・園」を通じて配布・回収し、未就園のお子さんのご家庭には郵送による配布・回収を行いました。

今後、全ての調査結果につきましては1月ごろに委託業者（グリーンエコ）から報告をいただきまして、取りまとめて次回2月の会議においてご報告し、ご検討していただく予定としておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、資料の9ページをご覧ください。アンケート調査票ですが、国の調査項目をベースに、町の実情、課題に応じて追加した独自設問のうち、就学前のお子さんを対象とした独自設問を抜粋しました。

— 2. お子さんの子育て支援サービスの利用について —

これが子育てふれあいセンターの設問になります。この独自項目の狙いといたしましては、施設の利用について、実は『旧中町幼稚園』で実施したいという内部の意見を持っております。それにつきまして、『子育てふれあいセンター』にどんなニーズがあるのかということをご丁寧に聞くような設問設定にしました。実際に施設を利用している方に対して、利用して良かったことや、利用していない方にはその理由や、どこにあると利用しやすいか、そして施設にどのような期待を持っているか、などのニーズ調査で得られた意見を参考に、実施場所も含めて今後の事業展開を検討していきたいと考えており、今回の調査に入れさせていただきました。これにつきましては、後の「4. 協議事項 1) 子育てふれあいセンターの移転について」の議題で、委員の皆様方から特にご意見をいただきたいと考えております。

次に12ページをご覧ください。こちらにつきましては、子育て家庭がどのようなサービスや施設を知っていて利用しているのか、また今後利用したいのかを把握して、今後の施策のあり方に活かしていくために設問を追加させていただきました。

次に13ページですが、これは無償化に関する設問を盛り込んでおります。国のほうで、保育料の無償化ということが議論をされており、今現在の案としましては来年度の10月を目途に「保育園、幼稚園、認定こども園等」も含まれますが、3歳から5歳までの保育料を無償化にするということと、それから0歳から2歳の保育料につきましては住民税非課税世帯のみが無償化されるということで、ニーズ調査にも大きく影響するものとして、まず幼児教育無償化の影響に関する設問を追加させていただきました。

次に15ページになります。こちらは小学生のアンケートの独自質問として、前回の会議の中で委員の方から、小学生の放課後の過ごし方の部分で、地域で子育て活動していただいている立場から、『放課後子ども広場』の利用について、保護者の意見に関してのご意見をいただきましたので、その分について独自設問として追加をさせていただきました。

【鈴木会長】

集計はまだこれからですね。

【事務局】

単純集計はできているのですが、クロス集計がまだなので、2月の会議で報告します。

【鈴木会長】

今回、質疑するようないところもないですが、回収率はすごいですね。他市町でもこんな感じですか。

【事務局】

通常、市町村から郵送で配布して郵送で回収する場合は6割程度か、多くてもそれぐらいかなとは思っています。また小学校・園とか、直接配布して回収する場合、70%位になることも多いですけども、多可町においては非常に高いと思っております。

【鈴木会長】

とても高いので、96.3%って見たことない。よほど関心が高いかなと思ったりもするのですが、結果がどのように出てくるか、楽しみでもあるのですが、就学前も73%、それも少し高めに出てきているので。

【事務局】

そうですね。配布した数の中から、ご兄弟の分を、同じ園で通園されていらっしゃる分については、どちらか一方という形、世帯というか家庭でという形にさせてもらったので。その分、ちょっと少し下がっているかなとは思いますが。

【鈴木会長】

不思議なのは、合計のところは82.9%で、回収率、就学前と小学生と両方上がっているのに何で合計が一緒になるのかなというのが。

【事務局】

計算したらそのようになりました。

【事務局】

前は。小学生は6年生までやりました。

【鈴木会長】

でもおかしいですよ、まあいいや。細かいことは、まあいいですけども。でも非常に関心が高いということだけは、もう間違いないので、楽しみにしたいと思います。

【事務局】

たくさんの方にご協力をいただきまして、ありがたいと思っております。

【鈴木会長】

ということで、後ほど『ふれあいセンターに』関しては副課長にも言っていただいたように、後でご検討いただきますので、ご確認いただきたいと思います。

皆様のご意見を反映しながらニーズ調査が進んでいるということでありますが、この点で何かご質問ございますか。なければ、報告ですから進めたいと思います。

3)の平成31年度保育施設等入所説明会の開催等について、こちらも事務局のほうからご説明をお願いいたします。

3) 平成 31 年度保育施設等入所説明会の開催等について

【事務局】

— 資料 3 の説明 —

入所申込の受付期間は10月末まで締め切りまして、現在入所申し込みをしていただいた書類をもとに、入所調整がほぼ完了しているような状況でございます。これから年明けの1月に入所決定、

それから年度末までに保育料の決定について順次作業を進めてまいります。

申込状況につきましては、そちらの3（17ページ）の表のとおりとなっております。

大変申し訳ないのですが、各年度の『町内就園児数』と書いておりますのは、町内のお子さんのうち、入所申込をされた児童数になります。大変わかりにくい表記となり申し訳ございません。こちらの数字の中には他市町からの受託児童数は入っておりません。31年度の全体の申込児童数は533人と、前年より13人少なくなっておりますが、申込率としましては77.1%で1.3ポイント増えております。児童数が29年から減っているにも関わらず、働いているお母さんが増えているのでしょうか、入所を希望される方が多くなってきているという結果となっております。

これにつきましては以上、簡単ですが報告とさせていただきます。

【鈴木会長】

77%ということでは申込率が高くなっていると。できたら子どもの数も増えたほうがいいなと思うのですが、そこはまたちょっと。在宅の数がありますけれども、これは申込み、5歳児の4人が在宅という扱いにはなっていますが、他市町の未認可に行っているか、その幼稚園の分はここに入っているのですか。

【事務局】

他市町の分も入っていると思います。町への申し込み児童全てが入っていると思います。

【鈴木会長】

まあ在宅とは書いてありますけれども、多分恐らく何らかの形で園や、他の幼稚園のところに行く感じですね。何らかの保育を受けてから小学校に上がってこられるという形にはなっているという状況です。特に4、5歳になってくると、ほとんどに近い形で就園されているとご理解いただけたらいいかと思えます。

では、あまり混乱もなく説明会も終わり、申請も出て、あとは決定、微調整して終わるぐらいの感じですね。

【事務局】

そうですね、はい。待機もございませんし、今のところ。

【鈴木会長】

待機もないし、ほぼ希望どおりに近い形ですか。

【事務局】

まず、第一希望に入っただけそうという状況です。

【鈴木会長】

3歳児以上に関しましては、もうほぼ届くかなという感じですよ。

【事務局】

そうですね、もう継続ということで。

【鈴木会長】

調整が必要とあれば、そういうあたりのところでは出るか出ないか、基本は希望どおりという形にはなります。何かご質問ございますか。では、受入体制はしっかりしていただきたいと思います。他にご質問、ございますかでしょうか。また何かありましたら、いつでもご意見、ご質問をいただければと思います。

それでは、続きまして4)の多可町保育施設入所選考基準要綱の制定について、事務局より。またどんな人がどんな形で入れるか、という基準を今まで全然、そんな基準がなくてもすんなり入れたのですが、決めたほうが良いかな、ということで決めたということらしいので、ご説明をよろしく願います。

4) 多可町保育施設入所選考基準要綱の制定について

【事務局】

— 資料4の説明 —

これまで、申込児童数に余裕があり、今まで明確な基準がなかったため、平成31年度の入所児童からは基準を定めて運用したいと考えております。そのため、「入所選考基準要綱」を制定させていただきました。基準につきましては、保護者が保育をできない程度に応じて家庭状況ごとに点数化し、この点数の高い人から順番に保育園等の利用決定を行うこととなります。概略につきましては、まず町内の継続児童については選考外とします。新規申込みの方や、町外の方について、手順に従って優先度が高い方から入所認可を行います。

— 別表1～3の説明 —

また、加点項目の中で、町内の保育園等に勤務する保育士を確保するために、お父さん、お母さんが保育士等や学童保育の支援員である場合には優先してするよう指導が国からありますので、加点対象にしております。以上、説明を終わります。

【鈴木会長】

ということで、全くの無風地帯の多可町に点数制が入るか、という感想はあるのですが実際、適用はまだしていない感じですか？

【事務局】

いえ、ほとんどの皆さん、この点数はつけずに第一希望のところへお入りいただいております。ただ、混み合っているところについては、これを適用するというので、まだ裁定までは至っていないという状況です。

【鈴木会長】

多分1月までに、それを使うか使わないかぐらいは、という感じですね。ただ調査項目にありました10月から無償化になるということで、そしてこれを使わなきゃいけない状況が2つぐらいありまして、あり得ないですが、子どもが増えて待機児童が増える。もう1つは保育所の確保ができず待機児童ができる。これはあつてはいけませんが、その何れかですね。希望が多いということは少し考えられます。特に0～1歳の乳児の場合、入所が増えてきているのは全国的にあります。そういったところで適

用されることがあるかもしれません。規則はしっかりとしたものなので、そういう状況ですね。今のところ、大丈夫と。確保もできていますし、待機もそんなにない、ということをございます。まだまだ使いませんが、途中で使う事態になるかもしれない、ということをご承知下さい。希望通りのところに入っただけ、というようなことで取り組んでいただいて、これは制定を念のためということですけども、ご質問いかがでしょうか。またいろいろとありましたら途中でとめていただいても結構です。

そうしましたら最後、5)の公私連携によるキッズランドの運営について、ご報告をお願いいたします。

5) 公私連携によるキッズランドの運営（民営化）について

【事務局】

— 資料5の説明 —

【鈴木会長】

当面、順調にとは思いますが、実際に寺尾さんや高尾さんはいかがですか？これはもう大体皆さん、承知されているようなことでしょうか。何か聞いたり思われたりしたことはありますか。

【委員】

公私連携ということは今後ずっとやるということですか。

【鈴木会長】

それは続いていくということご理解いただきたいです。

【事務局】

いろんな部分で協力、連携をしながら、もちろん保護者様と全て相談させていただいてということでは思っておりますので、今までずっとお伝えしているとお進めたいと思っております。

【委員】

ここに、それが入っているのですか、保護者と運営の間で？

【事務局】

はい、そうですね。

【委員】

それを心配されておられる保護者さんが多いので、最初だけで、あと決めたとおりにならないのではないかなとか、そういうことをおっしゃっている、ずっとまだ三者的な立場で一応入ってくださっているのですね。

【事務局】

はい、三者懇談会は継続してということでは思っておりますので、よろしく申し上げます。

【委員】

町からの補助金とかは、全く出なくなるのでしょうか？

【事務局】

いえ、また法人と会議もずっと毎月やっておりますので、その中でいろいろとご要望を聞かせていただいて、必要なものは、また検討していくということです。

【委員】

次の三者懇談会は、もうちょっと詳しく話をしていきたいと思っています。そろそろ検討ばかりではなく、はっきりとした指針を示していただきたいとは思っています。

【鈴木会長】

まだ、なかなか具体的にいかないですかね。難しいところもありますけど、よろしいでしょうか。

【委員】

関係ないかもしれませんが、先生たちの確保、保育士の確保はもうできているのですか？

【事務局】

はい。『かみ』も『やちよ』も、概ね確保できた、ということでございます。

【鈴木会長】

他にございますか。また思いついたらというか、後でこっそり落ち着いて、これを後で見てくださいたらいいと思うのですがね、お願いいたします。

いろいろ細かいところを検討されているようですので、徐々に進んでいるということで、また2月に、具体的に進んで、こういったことを取り組むということがございましたら、保護者様のほうから出していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。その間に、ちょっとやりとりしながらしてください。

【事務局】

そうですね、やはりなかなか難しい話がたくさんあつたりしてきますので、なかなか町とまた保護者の方と三者懇談会の中でいろいろお話を進めていく中で、当然、子どもも町から何かの形で必要になる時も来るのかな、という思いも込めて話も進めさせていただかないといけないかなとは思って取り組んでいるところではあります。

【事務局】

今後も、また継続して話し合いをする中で進めていきたいなと思っております。

【鈴木会長】

両園とも、それぞれ入りかけておられますので、その中で大切なことが出てくれば、協力してご検討を、よろしく申し上げます。ご意見もありましたら、直接言っていただくなり、本当に難しいところは、こちらで検討できればと思っています。よろしく申し上げます。ほかの委員の皆様から何かご質問等、ございますか。それでは、また何かありましたら、ぜひいろいろご意見をいただきたいと思っております。ま

た最後のほうになりましたら一言ずつ、少しお言葉をいただいてから終わろうと思っています、順調に進めば、ですけども。その間に発言していただくこともあるかと思いますが、よろしく申し上げます。

では、以上は報告事項を済ませていただきまして、4 協議事項、1) 子育てふれあいセンターの移転について、これは皆様のほうからご意見をいただいてというようなことがございますので、そのつもりで聞いていただければと思います。事務局の方、また委員さんからもいろいろとお聞きしたいと思えます。よろしく申し上げます。

【事務局】

まず子育てふれあいセンターの岡本先生のほうから提案説明をしていただきますので。

【鈴木会長】

わかりました。ではよろしく申し上げます。

4. 協議事項

1) 子育てふれあいセンターの移転について

【委員】

— 資料 6 の説明 —

さらに今回、資料をつけさせていただいていないですけども、自由利用のほうも年々下がってきておりまして、今年度、現時点では1日平均、大人も子供合わせて9.7人ということで、組数にすると3~4組という状況です。毎年減ってきているという状況です。

— 資料 6 ◆その後に状況が変更になった点の説明 —

拠点を移すことによって、『アスパルきっず』との連携もさらに取りやすくなって、よりスピーディな支援を行うことが可能になるのではないかなと思います。例えば、そこに行かれて、「子どもを連れて遊びに行くところってないですかね」というお尋ねがあったときに、八千代に拠点があったら、「また今度行くわ」というところが、歩いてでも行ける距離のところにあった場合、「あそこにあるよ」ということで行ける状態がつかれるのではないかなと思います。

また一人で行くのが不安であれば、そこに保健師さんも常設でおられるので、一緒に来ていただくこともできるのではないかなと考えております。

こういうふうに、いろんなことを考えまして、子育てふれあいセンターとしては旧中町幼稚園に拠点を移して、子育て関係の諸機関と連携をとりながら子育て支援の充実を図ることにつなげるとともに、より多くの子育て家庭の利用につなげるよう努力していきたいと考えております。以上です。またよろしく申し上げます。

【事務局】

— 資料 6 ◆これまでの経過の説明 —

実際に、お母さん方にも、いろいろご意見を聞かせていただきました。子育てふれあいセンターの岡本先生が一番話を聞いていただきましたが、私たちも実際にお話を聞かせていただく場を設けさせていただきました。

— 資料 6 ◆子育てふれあいセンターの拠点の説明 —

— 資料 6 ◆上記の件を受けて、検討したことの説明 —

その近くには中の児童公園もありますので、そこで遊んで、また町民プールもございますので、夏場でしたら、そこで利用していただく。お母さん方、一番意見が多かったのは、中區で買い物をしてそのまま帰れるから非常にありがたいというふうな、そういうご意見もいただいたところです。

— 資料 6 ◆今後の進め方、方向性の説明 —

八千代から全く子育ての集まる場所がなくなるということではないということで、ご理解をお願いしたいと思います。以上、簡単になりますけれども、来年の4月から子育ての拠点を旧中町幼稚園に移したいという案の説明をさせていただきました。

【事務局】

では、続きまして子育てふれあいセンターの独自設問の調査結果について、単純集計したものをご説明させていただきたいと思います。

これは就学前児童のみを対象に調査をしたものでございます。まず29ページをご覧ください。

— 資料 7 の説明 —

子どもと家族の状況について 計461人から回答

ふれあいセンターの利用/利用していない：72人/347人（16.3%/78.3%）

理由として、『幼稚園・保育施設等に通っており時間がない』方が273人。3歳以上のほとんどが「認定こども園」や「キッズランド」に通園しますので、利用する時間がない。実際にふれあいセンターを利用されている対象というのは、主に0～2歳までの保育園に通っていない在宅のお子さんと、その保護者の方が対象となってきます。

347人中273人は、どこかの保育園施設に通園している方となります。ということは、残り74名の方は、恐らく0～2歳までの在宅で子育てをしている方となりますが、子育て支援の制度を何も利用していないという状況が、このアンケート結果から伺えます。

保育園に通園している場合は、園など相談する場所がありますが、在宅で子育てをしている方につきましては、相談する場所や交流の機会が、それほど多く持てません。また現在のように核家族化により祖父母等からの支援をあまり期待できず、子育てを負担に感じる保護者に対し、どうすれば子育て世代包括支援センターであるとか子育てふれあいセンターへ繋げていくことができるのかが課題になってくると思います。

— 資料 7 図表 2. 子どもの子育て支援サービスの利用についての説明 —

— 資料 7 の図表 3. 多可町子育てふれあいセンターがどこにあると利用しやすいと思うかの説明 —

その理由として、八千代区への「交通の便が悪い」「遠い」などといった立地条件が原因と考えられます。

— 資料 7 図表 4. 多可町子育てふれあいセンターを今後利用したいと思うかの説明 —

ふれあいセンターの利用が 16.3%に対し、今後利用したい（102 人） 利用日数を増やしたい（26 人）
計 128 人（町全体の 3 割）

現状の 2 倍近くが今後利用したい。この方たちに実際に利用していただけるよう、利用しやすい環境を整えることが必要であるのではないかと考えております。

— 資料 7 図表 5. 多可町子育てふれあいセンターを利用してよかったこと【保護者の方】の説明 —

この中で「6. 不安や孤独感等を感じる事が減った」が 18 人、「8. の子育てを楽しむ余裕ができた」が 22 人あったことは、お母さん方がリフレッシュができ、子育ての不安の解消につながった成果であると言えるのではないかなと思っております。

— 資料 7 図表 6. 多可町子育てふれあいセンターを利用してよかったこと【お子さん】の説明 —

— 資料 7 図表 7. 多可町子育てふれあいセンターを利用していない理由の説明 —

「2. 他市の施設を利用している」これは西脇市の Miraie（みらいえ）へ行かれていますと思われる。
また「19. 利用方法や自分が施設の対象になるのかが分からない」「20. 子育てふれあいセンターについて知らなかった」が合わせて 8.3%あり、意外と知らない方がたくさんいらっしゃいますので、今後幅広い情報提供が必要かなと考えております。その他には、「11. 公園のような広い遊び場がない」「5. 駐車場が狭い」など、設備の充実を求める声もたくさんいただいております。

— 資料 7 図表 8. 多可町子育てふれあいセンターに期待していることの説明 —

— 資料 7 図表 9. 子育てふれあいセンターについての意見の説明 —

この中で一番多かったのは、やはり Miraie（みらいえ）のような施設を造ってほしいと望む声が一番多くありました。次には土曜、日曜日を開所してほしいですとか、時間を増やしてほしいなど、センターの運営に関する事ですか、加美から八千代は遠いので、旧中幼をふれあいセンターにしてほしい、園庭もあり利用しやすいなど、立地条件に関する事。また遊具を揃えた公園みたいなどころなど、屋外施設の充実を求める声もたくさんいただいております。子育てふれあいセンターとしましては、初めての子育てのお母さんに重点を置きながら、0～2 歳までの在宅で子育てをされているお母さんに、子育て世代包括支援センターの切れ目のない支援をするという点では、支援する側もやはり連携して「母子保健」「子育て世代包括支援センター」「子育てふれあいセンター」が切れ目なく一体的に支援していくシステムをつくっていくことが大切ではないかと考えております。

【鈴木会長】

説明についてはちょっと検討しているところです。移るということで、いろいろと考えたり感じたりということがあるとは思います。でも、こうやって見てみると保護者の方の期待は高いかなというふうに思いますので、そのことについて、いろいろご協議いただいた上で、採決を取る感じですか。

【事務局】

はい。

【鈴木会長】

これで原案ですけれども、皆さんにお諮りして、これで良いかどうかという方針をお伺いしたいと思っております。

ということで、ちょっといろいろ、内部の方のお話も含め、それから事務的な手続きだったり、皆さんのご意見だったりとか、絡みですけども、これについて中区、八千代区、加美区で、それぞれ自分のところにあったほうがいいよ、というような意見もあるのですけれども、施設の状況ですとか位置的な問題からして、ここがいいのではないかという内部からのご意見ですけども、地元のご意見としていかがでしょうか。

【委員】

何点か思ったのですが、入所基準といえますか、いろんな点数をつけるというのは、いよいよこういう地域でも、そういう時代になったのかな、というふうなことを感じたのですが、点数化して、難しいことをしようとたくさんの議論、細かく点数に分けていく、私もできるだけ公平に、公正に点数化していけるのかという心配も。基準を見る、点検する作業が非常に大変かなと。そうでなければ、点数化していくことの意味がなくなる。いい加減にここにしようか、ばかりではないと思いますが、そういったことがあってはいけません。その辺の基準が大変だろうと思いました。子育てふれあいセンターの「土日・祝日」の開館希望がありますが、色んな事情があるかと思えます。最近「シングルマザー」「母子家庭」、平日は恐らくどこかの「保育園・キッズランド・こども園」へ行かれると思いますが、家におじいちゃん、おばあちゃんがおられたらいいと思いますが、子どもが保育園へ行ってそれでいけますが、親子で色んな他の親子と触れ合いたいというふうなことになると、やはり「土日・祝日」。そういう所でないと母親も仕事をもちながら休むわけにはいかない。そういった部分で、ずっとではなくても、月に一回とか、そういう機会が持てるような企画があったらありがたいかなということです。

【鈴木会長】

なかなか「土日・祝日」なり、本当に利用者数というのは確かにそうかなと。結局、平日はそうやって、もう点数稼いででも入所しようかという話になってしまうかと思うのですけれども、でも移転のことについては、いかがですか。中区ですけれども。

【委員】

それは結構、中区のほうがというふうな意見で、保護者の意見がそういう意向であれば、それはそれでいいのではないかと。せつかくある施設ですので、それをまたという、幼稚園も有効活用ができる。そんなふうに思います。

【委員】

キッズランドの運営について、来年度から原則民営化ということで、先ほどもお話がでたと思うのですが、町が関わっておられるということで、かなり安心感がある。その辺、公私連携ということですので、町も関わっていただきたいと思えます。それから子育てふれあいセンターの場所が、どこがいいですか、というアンケートをとりますと、建物の場合は町の中心部という形で意見が収斂（しゅうれん）すると思うのですが、やはり「利用者の増、利便」を考えた場合、そうになってしまうと思えます。先ほどもおっしゃったのですが、あまり詳しくないので、新たにつくられる施設と、ハード面とソフト面について、色んな希望も出ているので、できるだけその辺りで充実を図っていただけたらと思えます。

あと気になったのは、町立の施設として従前の子育てふれあいセンターの施設を残す、というところがあったのですね。その辺の地元集落というのですか、地元へのきっちりとした説明だけはしていただけたらなど。余計なことかも知れないですが、お願いしたいと思います。

【鈴木会長】

やっぱり八千代からなくなると、八千代の人たちはと思うのですが、その辺はどう？何か説明とか？

【事務局】

八千代区の区長会長には事前にお伝えをさせていただいて、先日の区長会で全員にお伝えいただいたというような状況です。また地元の区長さんへは今、ご意見を聞かせていただきましたように調整をさせていただきたいというふうに思っております。

【鈴木会長】

おおむね中心部に、アクセスの良いというところ、致し方ないかなという感じです。でも中身については課長さんに説明いただきましたので、そういったことも努力をされるような形でということになっております。八千代のほう、いかがですか。何かキッズランドを見ても、なかなかどうですかね。

【委員】

そうですね。昔、子どもが園に入るまでに、助けられたので、ずっと通っていました。それがなくなるのは寂しいですが、中町に移ったほうが皆さん来やすいと思いますし、もっと助かる方々もいると思うのでいいと思いますが、まだ（施設が）きれいで、床暖もありますし、何かに使えたらいいなと思いますので閉鎖するのがもったいないかなと。何かに役立ったら、前にもちょっと言わせてもらったのですが、でも移動することはいいことだと思います。

【鈴木会長】

床暖ね。何か難しいですけど。良かったですね、ほんわかしてね。

【委員】

すごく良かったです。

【鈴木会長】

あの雰囲気かね、なかなか引き継げば。図書とかいう話もありましたしね、ちょっといろいろ移して、あの雰囲気を残していただきたいですね。というご意見です。真ん中に移すのは、まあね、全体を考えたら仕方がないという感じですかね。予算もあるので難しい、七百何十万と聞かれたらね、ちょっとびっくりしますね、空調だけで。新しく着けたほうが早いですね、多分。

【事務局】

そうですね。言いながらエアコン、もう19年経っていますので、建った当時のままなのです。

【鈴木会長】

ちょっと、それは難しい。要するに新設したほうが。

【事務局】

はい、新規につけるほうが安くなります。

【鈴木会長】

何分の一かで済むのです。そう言われると、何も言えない。ちょっと近くなる加美としてはいかがですか。八千代にあったから、あまり関係なかったですか。

【委員】

八千代は行きにくかったです。

【鈴木会長】

正直、ちょっと遠いですね。

【委員】

そうです、そのためだけに行かないといけないので。私も中町にしましたし、中町にあったほうがいかなど。もちろん加美の人は多分、加美にあったほうがいいけど、三町で考えたら中町にあるのが一番ベターだろうと思った人が多いなと思いました。

【鈴木会長】

買い物も行けるし。

【委員】

はい。結構、西脇に行かれる人、その間にあるから、帰りに立ち寄りたりできる主要なところがあるので、いいと思います。

【鈴木会長】

いかがですか。あんまりあれかもしれませんが。

【委員】

皆さんの意見を聞いていたら、やっぱり中町ということで。もったいないというのと、ここに書いてあったのですが、図書館とかになったら良いとか、子どもが色んなことができると思うので、何か出来たらいいなと思います。

【鈴木会長】

図書館、やはり本が充実していると、すごく助かりますけど。

【委員】

それと Miraie（みらいえ）さんの話がね、本当に良かったけど、逆にほかの市、丹波市さんとかあるので、何か中町に来てもらえるような何かそんなことがあったら良いのかなと思います。

【事務局】

設備については、ちょっと検討しているところです。

【鈴木会長】

多可町は児童会の冊子が置いてあったりして、面白いことをしているな、というのはたまに思うのですが、なかなかね。どういった形ですかというのは、なるべく土日に行ってもらわないといけないですよ。この辺は大きく領いてはいますが、いかがですか。

【委員】

いや、場所的には子どもを連れていくというと、1~2人連れていき、絶対車で移動することになるので、場所的にはどこでも、八千代でも行ったりしておりましたし、そこら辺はあれですけど。やはり何をやるかという目的を持って多分行かれると思うので、あそこに行ったらあれがあるよ、というのがあったら来るのですよね。やっぱり元気に遊ばせたい。天気が悪かったらと言って遊ばせる所を考えると、ちょっと Miraie（みらいえ）さんとか、ああいう遊べるところとかいうイメージになってしまったりして、八千代さんにあるとき、駐車場が狭いからといって、行ってみただけ止める所がないし、と思ってそのまま、違う所へ行ってみようか、と言って遠方のほうに出ちゃったり、ということもあるので、駐車場があるというのは第一前提なのかな。しっかり、そういうのをとめてとかいうのは、絶対皆さん、車で来られてると思ひで。

近くに、いろんな施設があったら、確かに歩いてちょっと図書館も行って借りようかとかいうのもできたりもするし、アスパルのほうに、ちょっと相談事もあるし、何か書類があるからとか行ったりもできると思うので、立地的にはすごいいい場所ではあると思うので、有効活用していただきたいと思う。ただ、本当に中のどういったものになっていくかというのは。あと「土・日・祝日」ですよ。雨の日に、子どもをあそこの子と遊ばせたいのだけど、といって遊びに行ったら、親も一緒に話もできたりするので、そういうふうなところも考えていただきたいのと、遊具もあつたりして最近、公園で遊ばせるのも遊具がなかったりして、それで余暇村公園に行こうか、となったりとかいうのもあるので、本当に何か充実したものがあれば親としては助かる。目的を持っていくのにはいい選択肢の1つになるのではないかなと思います。

【事務局】

旧中町幼稚園の公園というか運動場というか、結構よい遊具がそろっています。

【委員】

僕らも今、あそこを使っていいのかもわからなくて、勝手に入っていいのかもわからない状態なので、せっかくあんなにあるのに、入っていいのかなと思ひながら、外で眺めて結局、入らないまま帰ったり、噴水の所で遊ばせて帰ったりとなるので、あそこに入れて遊べるのだったら、あそこに行こうとなったりもすると思うので、今の段階でも、使っていいのかも、わからなかった。

【事務局】

屋内の遊具も、考えてみようかと思うんですけども、土・日という話が出たんですけど、それについても今検討しているところで、保護者の方からすると土曜日と日曜日と、両方開けるのは、ちょっと難しいですね。人員体制の中で。そうすると、日曜日のほうがいいのか、土曜日のほうが使いやすいのか、聞いてみようかと思います。

【委員】

土曜日って割と仕事が入ったりすることもあったりして、保育園も通われている土曜日にもあるので、やっぱりそういう子たちのことも考えると日曜日のほうが、あそこの子と一緒に遊ばせに行こうかという選択もできたり、誰々君と友達で約束して、あそこで遊びたいから連れてって、というのが出たりとかいうのもあるかもしれないので、そういうのも考えると、僕個人の意見としては、日曜日がいいのかなと思います。

【事務局】

今、人数体制で両方開けるといことが難しいので、どちらかを開所していく方向で検討しているような状況です。

【鈴木会長】

それを聞いとけば良かったね、アンケートでね。

【事務局】

そうですね。そのとき、そこまで思わなかったの。

【鈴木会長】

僕も土曜日がないので日曜日が。週休2日のはずなのに、キャリアアップに出ていますから、日曜日のほうがいいですね。土曜日遊びたかったら余暇村へ行って遊んで日曜日休みたいけどね。

【委員】

だから、旦那さんとか、そういう施設に行ってくれるのですね。そうやって行ってくれる方とかには、入りにくいというのがあるのですかね、男の人が。

【鈴木会長】

結構、日曜とかにお父さん向けの何かやればいいんですけどね。よくありますよ。私のうちのほうとかも結構、お父さん向けや、登山もありますけど、日曜日に何かお父さんのためだったり、それで参加を促す感じで。そっちのほうの運営委員長もしているの、そんなので、いろいろと日曜日にどうやって増やすか、とかあるいは高校生をどうやって引き込むかみたいなこともやり出しているんですけど、そんなところも。日曜日は結構。うちに帰って言っといてあげてください。

【事務局】

奥さんの一声が一番、お父さんに日曜日、そこへ連れて遊びに行っとして、私は掃除するからと言うと行ってくれるかもしれない。

【鈴木会長】

余暇村まで行けというとな、何か次の日、腰が痛くなったりするのであれですけど。

【委員】

そうですね。余暇村だったら家族総出になるけど、中町幼稚園だと一人でも行かせられますね。

【鈴木会長】

お父さん専用席か何かつくって、要らない？入りやすい。それから日曜日で利用するというのいいのではないかということですね。そんなことを、考えていったほうがいいですね。場所的には、やはりあそこがいいかなというふうな話ですね。

【委員】

場所的に言うとな、あそこがいいのかなと思いつつ、勉強不足で、例えば「子育てゾーン」という言葉は非常に魅力的かなと思いますし、「子育てふれあいセンター」と「子育て世代包括支援センター」が、もう一つ、はっきり違いがあるのかなとか、いろいろ説明はなされているのですが、その辺も皆さんにコンセンサス、説明責任を持って通知をすることで、ゾーンの意味合いを広げていくことが、一つは大事なかなと思います。「子育てふれあいセンター」なら、お母さん達が集まって、子ども達も一緒に行けて、お母さんとのふれあいもあるし、親子で一緒になって何かイベントがあるとか、そういったところで。小学校としては、そこのお世話いただきながら命の授業を、小さいお子さんを親子で連れてきていただいて、子どもたちと触れ合うと、そういったことでは毎年お世話になっている。非常に良い。ありがたいなと思うところですね。

一方での「包括支援センター」は、そういったこともあるけど、子育ての悩みとか発達相談とか、検診とか、いろんなものを含めて、今どきの保護者が自分のところへ直接、発達の特性によつてのニーズを持たれるお家もあるけれど、そのご家庭や子どもたちへの支援だけではなく、みんながそれを理解するとかね。特性というのは、発達障害というよりは個性だと言われている。当然、今よく言われていることですが、私ら小学校の現場にいると、やっぱりそういう発達の特性を持った子どもたちを、いい意味でもっとオープンに、当該保護者と連携しながらオープンにしていきたい。この子の個性として認めながら、周りの保護者も子どもと一緒に、それを認め合いながら、みんなでフォローし合ったり、磨き合ったりして伸びていく、そんな環境を創っていくことが非常に、心の教育からしても、そういう支援の視点から必要なことだと。だから、私たちは働く親御さん目線、あるいは親子のフォロー、親子の絆づくり、という事と共に、社会的にもっと広い形の「人権・教育・共生」を考えていくようなゾーンとして、やっぱり「子育てゾーン」というのは、その原点というか、幼児期からスタートする重要な機関だというふうに考えていきたい。それをうまく活用できる、場所のこともそうですが、質的にそういったことを大切に、ここにいるメンバーであるとか、そこから発信していく状況を大事にしていきたいなと思います。場所ですと今、いろいろお話、聞かせてもらったら中区がいいのかなと。子育てゾーンとの絡みもあるので。あと色目ですが、老朽化とか新設ということもですけど、子どもに癒しや、大人もですが、カラーリングってすごく大事なので、夢のある、温かみのある、季節感のある、色彩がある。空調も大事ですが、そういったものを今後のリニューアルに必要なこと。最後に、福祉施設もたくさんありますし、三世代交流や、ここに謳われていましたけど、やはり同じ家の中でもこれは、良い悪い、の話ではないのですが、同敷地内で土地があるから、おじいちゃんおばあちゃんはこちらの家に、若夫婦は、子どもはこちらに住んでいる。昔だと大人の色々な「交流・しがらみ」いろんなもの

を引っくるめて、その中で気配り、気遣いも覚えてくる。それが子どもの中で、それがなくても成り立っている家庭というか社会がありますでしょう。そうすると、子どもたちは学校内で、将来は社会に出るが、自分が「我慢をする、相手の気持ちを慮る、いい意味で折り合いをつける」といったスキルを身につけていくのに家庭でのフォローも重要ですが、社会全体に行ったときに、そこへ高齢者とか、そういう人たちの、「敬老の日」発祥の町でもある。それにこだわるわけではないですが、広い世代の交流、高校生の話も出ていましたが、そういうことも、視野に入れてると思いますが、そんなことも考えると、多可高校もある、その辺に老健施設もある。いろんなものが有効活用できて、そこが「散歩ゾーン」になったりと、そんなことを感じながら今日のお話を聞かせていただきました。場所のことだけでなく、いろんな話をしましたけど、私が思うのは以上です。

【鈴木会長】

そこが拠点になって、本当にいろんな世代が集まってきたら、散歩に行く前におばあちゃんが集まってお茶を飲んだりとかね。

【委員】

皆さんの散歩コースであるわけなので、子どもたちも通学路で通るし、そのライン上にもあるので、うまく使えばいいかなと思います。

【鈴木会長】

いろんな視点でご意見ありがとうございます。というようなご意見が出ました。ほかの委員、皆さん、いかがでしょうか。

【委員】

本当に「子育てふれあいセンター」が旧中町幼稚園に移るとするのは、保護者の方も望まれていることなので、いいと思いますが、あと今の施設、「キッズランドやちよ」にある子育て棟は、管理は町になるのですか？そこで、どういうふうに管理されるのか。「キッズランドやちよ」の中で、もう19年前にできたときから、あそこの棟というのはシンボリックで、目をひく棟だったのです。それが誰もいない空き家状態になって、管理しているというものの、頻繁に出入りのある状態ではない。寂れていくのが見えるような状態で置かれるのがすごく寂しいですし、もしかしたら解体ということもあり得ることでしょうか？その辺、更地にしてしまうとか、切り離してとか、何かやっぱり住まなくなったところって本当に荒れていくのは、もう目に見えて、加美区の南保育所とか北保育所も本当にあつという間に、何か寂しい状態になってしまったので、子どもたちが目に見える状態に置いておくというのは、何かとっても寂しいと思うのです。

今、園の子たちも幼稚園部の子も、登園してから、「センターに行く、センターに行く」と、言っていました。それを利用させていただいて、そこで遊んだ施設が、もうここは入れないとなって、すごく寂しい気がするので、あとの活用も、考えていけたらなと思います。

【鈴木会長】

使わずに、そのままというのはやめたほうがいいですよ。

【委員】

正直申し上げて、私どもに管理して、と言われると非常に辛いところもあるので、多可町で何かの形でいい方向に持っていただければ非常にありがたい話ではないかなと思います。

【鈴木会長】

それか更地にするか。何か閉めたままで置いとくというのは。

【事務局】

行政改革の公共施設再配置計画の中で考えてもらうことになるのでしょうか。

【事務局】

今言われたように、あの施設をどうするかというのは、これは大きな。駐車場が狭いから、更地にするというのも一つの案だと思います。何とか活用ができればいいのにといいことで、楽久園さんに使わないですか、広々としますよというようなことを話をさせてもらいましたが、いえいえ、地域との子育て広場で十分できるから、そちらは結構です、ということなので、また町として、どうしていくかとは早急に考えていきたいと思っております。本当に活用する、ほっておいたらどんどんスペースがないということになれば、例えば駐車場にして、よりキッズのほうに止めやすいようにする、というのも一つの大きな選択肢かなとも思います。

【木俣副会長】

どこの土地になりますか？町の土地ですか？

【事務局】

町の土地と、それから借りているところもあります。

【事務局】

子育て棟の部分は、ほとんどが借地です。

【鈴木会長】

上物だけ。ややこしいですね。

【委員】

今も秋山委員がお話されたように、私も中幼がこのように教育委員会がとりあえず入ります。入ったところに子育てが使います。ということは、本当に喜ばしいことと思って聞かせてもらっています。旧中幼に関して、何年前前に閉鎖になる話があった時に、寂しいなと言って、保護者の方も立ち上がって話されてたと思いますがこうして再利用というか、利用されるということは、本当にいいことですね。そこで、あの中幼が広い園庭で木があって。先ほども話で出てきましたけども、自然の中の本当にいい園庭で、大きな木があり、遊具もあり、本当に魅力的な園庭なのですよね。あの園庭が本当に子どもたちの癒しの場になれば、もう最高だと思います。その中に身を置くだけでもいい感じになりますので、今、あさか（こども園）さんと、四恩（こども園）さんと、何か行ってらっしゃるのか、2カ月に1回とか順番に。5歳児コースで行って使ってくださっているのですが、できれば、後々もずっと続けて行

っていただけたらと思ったりもします。その中で遊具の管理をしますということになってきたら、遊具の安全面も、確実なものになっていくのかなと。今、結構錆びているかと思うのです。錆びてきたところも、心配なところもありますので、管理ももう一度見直していただけたらと思います。

それから、そのゾーンの中にプールもありますよ、という話が出ていたと思うのですが、衛生的にも良くないと思ったり。私、何回かあそこを利用させていただいて、孫たちと一緒に行くのですが、もう少しきれいな感じになれば、あのプールも、利用頻度が高まるのではないかな。少し話は別になるのですが、もしゾーンがその辺一帯になれば、こちらの園庭は素晴らしいよ、ついでにプールも行こうか、ああ、プールもいいよというふうな形で。多可町が「子育てするなら多可町で」というふうなことに繋がっていくのであれば、ありがたいと思いました。

【事務局】

先だって、社会教育委員会の中で、子連協の会長さんが委員で来ておられて、中区のあのプールは非常に奥さんのほうも気に入ってるんだけど、小さな子を連れて行ったときのトイレとか、更衣室とかを、もうちょっとどうにか良くしてほしいというご意見でした。

【委員】

更衣室あたりがね。

【委員】

そうそう、その意見を言われました。今日はこれ言ってきてと。そうですねと言って。

【委員】

シャワーがないのですね。ダーッと流れて歩いてずっと行くシャワーはあるのだけれども。個室的シャワーがないという感じだったり。トイレも、苦しいなといったところがあったりしますね。

【委員】

小さな子、就学前の子どもが使えるというところを、もうちょっと考えて整備をしていただいたら、ありがたいですと、その意見を言われたので。

【委員】

そうそう、ゾーンにするならば、余計なことそういうことがあったらありがたいですね。

【鈴木会長】

小さいお子さんに、使いやすいのが一番。

【委員】

いいですけど、着がえる所が汚いですね。足がベタベタになるし。ちっちゃい子を本当に着がえさせたりするのが大変。寝かせられるようなところもないし、連れていったら大変なことになる。でも、いいと思うので、安くて雰囲気も良いのでちゃんと設備を整えてもらったら。

【鈴木会長】

移すはいいのですが、その後が。遊具のメンテ、それからプールのトイレ。いろいろね、課題が出てくるかと思うのですが、そういった形で真ん中に集約することで非常に使いやすくなってということが出てくると思います。残ったところも、どういうふうにするか、ちょっとご検討いただければと思います。

【委員】

たくさんの先生方のご意見を聞かせていただいて、大変勉強になりました。協議事項に戻りますと、移転は中町でいいと思います。やっぱり子育てふれあいセンターの利用率というか、役割ってすごく重要になってくると思うのです。ここに来ていただいた保護者の方、お父さんとかお母さん。すごく協力的な方ですけど、やっぱり子育てについて誰に相談したらいいのというようなお母さんもたくさん増えてくると思うので、ここにもあるように、子育ての楽しみができたとか、不安や孤独感を感じるものが減ったというのは、すごく大事なことだと思いますので、やっぱり中町やったら一番行きやすいですし、拠点にされたらいいと思います。

【鈴木会長】

包括センターが近くにあって、本当にその辺で、ちょっと声をかければというところが。

【委員】

やっぱり地元の方にとっては、子育てのあの建物というのは愛着があって、その行く末がどうなるかというのは、とても気になることだと改めて思ったのと、とても素敵な建物でもあるので、何かしら更地とかではなくて、素敵なシンボルになるようなものになればいいかと、人ごとのように。「じゃ、どうするんだ」と言われたら「さあ…」というところではあるんですけど。そんなふうに地域の方にとっては、とても素敵なものがあつたということが、また次に活かされたいのになと思います。

それと、子育て支援センターが中幼になるということで。あそこはちょっと道から入っていますし、日当たりも良くて、とても自然を感じる場所でもあるので、就園前のお子さんたちが親子で、家族で集まって楽しいひとときを過ごすには、とてもいい場所でないかなというふうに思いました。

園のほうでは、子どもは減ってるけれどもゼロ歳から、いわゆる未満児のお子さんたちの入園が増えておまして。特にそのお子さんたちが朝の7時半から夜の7時まで。利用される方がやっぱりお仕事をされているので、利用が特にゼロ歳から未満児のお子さんに多いです。ということを見ると一番家族として親子の愛着関係を築かないといけないとても重要な時期を、園で過ごされる家族の方が増えてらっしゃる。それは悪いことではなくて、園のほうもそれで十分なかかわりが幼保の部分と教育の部分で、というふうに。かなり園の中の受け入れということも大切に考えるようになってきて、家族だけではなく、同年代の子どもたちと、それからそれを温かく見守る親ではない先生たちが一緒に育ち合っ。しかも、保護者の方を支援していくというところで、かなり変わってきて。良い方向に変わってきてはいるとは思いますが、家族の関係を構築しているということにはとても大事な時期なので。園には来ていない時間。土曜であるとか日曜日であるとか。

土曜日も保育しておりますけれども、土曜日に登園される方には、お仕事ではないけど子どもとどうやって過ごしたらいいかわからないから園に登園させますみたいな方も結構いらっや。今日は明らかにお父さんもお母さんもお休みだけ来てるというお子さんが、特に早くから遅くまでいらっやる方が、ちょっと気になったりすることもあります。そのお母さんたちが家族で気軽に敷居低く、そこ

でいろんな交流ができるような安心な行政が管理をされているような場所があったら。どんどん家族関係を築く、親子で触れ合う、しかも他世代の方と、さっきもいろんなご意見が出ていて、いいなと思って聞いていたのですけれど、いろんな交流ができて、みんなで町も家族も、いろんなよその人も一緒に宝である子どもたちを育てているというような環境が、子育て支援センターが中心となって。月曜から金曜日までは園に任せて安心して預けていただいて、それ以外のお休みのときは安全なところで家族と一緒に絆を育んでいくみたいな場所ができればいいなと思うので、ぜひ日曜日だけではなくて土曜、祝日も、平日は園のほうにお任せいただいて。

また平日のほうは子育て支援室で未就園のお子さんが集まって交流していただくというような活動もしていますので、それ以外の園がお休みのときは、ここへ行ったら心配なく子育てもしんどくなく、楽しい時間を持てるというようなことを考えていただけたら。土曜日だけではなくてと思いました。

【鈴木会長】

その代わりに火水休みとか。

【委員】

その方は平日お休みいただいて、その時は園の子育て広場を利用されたらいかがでしょうか。

【鈴木会長】

今年月曜日休みなのです、児童館も。月曜閉館なので、月曜は行き場がなくなる。代休になったのですけど行き場がなくなるのです。逆に、火水休みぐらいがいいかもしれませんね。月曜日、代休が小学校でもあったりするのですけど。でも、本当に保護者の方がかかわるほんわかした雰囲気のところを、ぜひつくっていただく。これからも継続して作っていただくというのがいいですね。ウイークデーは園にお任せください、ということですが、いかがですか。

【委員】

やちよの、あの建物。すごく本当にいい建物で。先日ちょっと知り合いの者がMiraie (みらいえ)に遊びに行ったのだけど、大きい子もたくさんいらっしゃるの、何かやちよの子育てふれあいセンターに遊びに行ったら、本当に月齢の小さい子が遊ぶのに、とても遊びやすかったという話も聞いたりして、すごく良かったということも聞きました。あの建物、本当に何かそういう、いろいろお金もかかっているかと思うのですけど、先ほど言われたように、何か再利用できたら良くないかと思いました。

【委員】

まず移転についてはいいかなと思います。ただ一つ思うことは、遊具についてなんですけども、利用される中心がゼロ、1、2歳ぐらいの子となると。あそこにある遊具は、もともと幼稚園の5歳児中心の遊具になりますので、そういう意味ではあれで遊ぶのには、ちょっと親からすると怖い場面が出てくるのではないかと思うのです。なので、ぜひゼロ、1、2歳に遊べるような遊具を整備してほしいと思います。

それと、あそこの遊具はいいと思うのですよ。5歳児とか小学校とか遊ぶのにいいと思うのですよ。ここにも書いて、ほかの先生も言われるように、ぜひ図書館をあそこに移転して、あそこが子どもが集まる場所になったらいいのというふうに。そうすると、あの遊具も、今の図書館、小学生がよく遊びに行ったりするのですけど、私もよく昔は遊んどったんですけど。糶屋公園と言って。遊具が沢山あ

ったのですよ。今、一つも遊具がないのですよ。なので、あそこに図書館に行こうという子どもらが行って本見たりして、ちょっと遊びたいなといったときに遊べる場所が、広いところはあるんだけど遊具がないんですね。今の幼稚園が図書館になって遊びに行った。じゃあ、ちょっと遊ぼうと思ったら遊具もあるというふうになれるので。子どもが集って遊ぶ場所としては、みんながあそこに行って遊べる場所になるのではないかという気がします。

そうすると、今の遊具も有効に使えるし。あそこが今、運動場とゾーンが分かれていますので、大きい子が遊ぶゾーンみたいな形で、こっちの運動場のところに小さい子のゾーンをつくって、そこでちょっと遊具を整備して小さい子がそっちで遊べるようなところがあると喜ばれるのではないかと思います。ぜひ、お金を。

お金のことを言うと、キッズランドが民営化になるので多分、それでお金が浮くはずですし、それから、3歳児以上の子どもの無償化のこともありますので。それでやっぱり今までよりはお金はあるはずなので。今まで使っていた子どもの分は、ぜひ子どもものものとして確保してほしいなというふうに思います。ぜひ整備をして、子どもが、小学校とかの子も一緒に遊べるところになればいいんじゃないかなと。そうやって、あそこに、図書館来たら、土日も開くようになるだろうし。そうすると、みんなそこへ集まってこれるような場所になったらいいなと思います。

【鈴木会長】

だそうです。図書館、持ってこないといけませんね。選択と集中というのも、ある意味、あの部分は非常にいいことだと思いますけども。本当に先生方のおっしゃるように、そこに持ってきたらいいなど。いろいろ出てきておりますけど、特にちっちゃい子ども向けの本から始めて、できたら集中したりするというのも必要かもしれません。ご指摘いただいた乳幼児用の、室内にも多分、整備はされるので、そのところで少し運動ができるようにということをお考えかもしれないですけども、何か芝生の話もあったし、何か見ていたら芝生、本、休日という、この3つぐらいの要望がありそうですので、そのあたりを柱にさせていただいて、包括的に、本当に総合的に、あのあたりがというようなご意見があったかというふうに思います。

【委員】

そうですね、有効に活用していただいて。私どもも使わせていただけたら非常にありがたいかなということになります。ただ管理しなさいと言われると、なかなか。費用面等々人件費等も考えると非常に厳しいところもあるかなというふうには、ずっと最初のほうから言っていることなので。

【鈴木会長】

ということで、その建物の検討をということで、皆様のご意見をお聞きしていますと、センターの移転ということに関しましては皆様、おおむね賛成のようだと思いますけども、ここで採決ということですので、簡単にとりませんが、反対される方はいらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらないようですので、一応、皆様、この案にはおおむね賛成ということで。ただし条件つき、ということで。要望を今いただきまして山ほど出ましたので、そのあたりは事務局のほうで、ぜひご検討いただけたらということですね。

というわけで、協議事項のほうをしっかりと協議していただきまして、結論が出たようでございます。皆様のご協力ありがとうございました。

一応、これで今日いただいている報告事項、協議事項はこれでおしまいになります。一応、皆様方、ずっと言っていただきましたが、その他のこと、あるいは今までのことでも結構ですので、もし何かありましたら一言いただいてから終わろうと思いますが、いかがでしょうか。

では、またぜひご意見もいろいろあると思いますが、事務局のほうにまた直接ご連絡いただけると。また、2月のときにもしありましたら、そちらのほうからご提案いただいても結構でございます。

【委員】

いえいえ、すいません、本当に力になれなくて。何か辞めてしまうの、本当に申し訳ないですけど、すいません。それしか言えなくて。

【鈴木会長】

本当に長いことありがとうございました。いろいろ苦しい中、ちゃんと採用していただいてありがとうございました。

【委員】

子育て支援センター移転に向けての後押しのご意見、たくさんいただいて本当にありがとうございました。ハード面のほうはいろいろお願いして整えていきたいと思います。ソフト面に関しては今、いろんな取り組みをしているのですが、もともと総合的に今、吉田先生からご意見いただいたと思うのですが、考慮しながら本当に総合的なゾーンとしていけるように取り組んでいきたいなと思っていますので、またいろいろご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

【鈴木会長】

今のうちに大きな絵を描いて、ぜひ今後。最初に絵を描くのは別に誰も文句言わないので。

【鈴木会長】

というわけで、その他になります。

5. その他

【事務局】

- ・日時 第18回子ども・子育て会議の開催予定 平成31年2月21日（木）午後3時～午後5時
- ・場所 多可町役場 特別会議室

ニーズ調査の結果について、グリーンエコさんからご報告をいただいて、取りまとめて、委員の皆様方に、ご報告をさせていただいて、またご協議をしていただく予定となっておりますので、どうぞ次回もよろしくお願いいたします。

6. 閉会

【木俣副会長】

本日の協議事項の内容は課題も挙がってございましたけれども、良い方向に行ったということで、内容の濃い協議をしていただけたと思います。ありがとうございました。

本当にこの多可町が、子育てするなら多可町ですよ、というようなモットーを常に頭に置いて、子どもたちのためという施策を一番に考えていただいて、この会議の中で、みんなで話し、考えていけたらなと常日頃から思っております。また次回2月によろしく願いいたします。